



わたなべゆういち さん

町田市に住んでいる絵本作家 わたなべゆういち さんの本を紹介します。
文学館や図書館で閲覧・貸出できます。ぜひ手に取ってみてください。

作家紹介

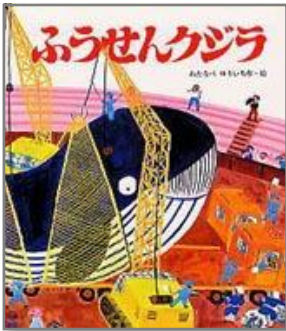
渡辺有一。1943年旧満州生まれ。武蔵野美術短期大学卒業後、子どもの本の世界に入る。1975年『ふうせんクジラ』でデビュー。1985年『はしれ、きたかぜ号』で第8回絵本にっぽん賞、1983年『ねござかな』でポローニャ国際児童図書展グラフィック賞、2010年『すやすやタヌキがねていたら』(文・内田麟太郎)で第15回日本絵本賞を受賞。あたたかくユーモアあふれる文や鮮やかな色彩の絵が人気を集めている。1978年から町田に在住。

作品介绍



自作絵本

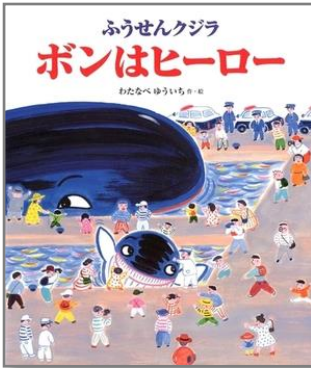
文も絵もわたなべさんの作です



『ふうせんクジラ』(1989年、佼成出版)

クジラのボンがふうせんを口に入れてジャンプしたら、体が空に浮かんでしまいました。空を泳ぎながら初めて見る牧場や町を楽しみますが、サッカー場の真上を通ったときにサッカーボールが飛んで来て、おなかに当たってしまって…。

1975年に発表されたデビュー作ですが、再版の際に描き直しているため、1978年の初版とは少し絵が違ってきます。



『ふうせんクジラ ボンはヒーロー』

(2012年、佼成出版社)

ボンと船長さんは友だちです。その船長さんの遊覧船が、氷山に持ち上げられてしまいました。ボンが海の水を震わせて合図を送ると、お父さんやお母さん、仲間のクジラたちがやってきて、遊覧船の乗客を背に乗せて陸地まで連れていってくれたのです。

小さな体に秘められた勇気と、乗客のみんなのためにがんばる健気な姿に、ボンの成長がうかがえます。

◆季節もの

『さむがりやのねこ』(1984年、フレーベル館)

北の国に住んでいるさむがりやのねこが南の国を目指して旅に出ました。ある家の前でひとねむりしていると、ねこに気づかなかったおばあさんに洗濯物と一緒に洗われてしまい……。

画面の色彩によって、ねこが体感している温度の変化が伝わってきます。わたなべさんはいつも絵の具を画材にしていますが、この作品は“あたたかい雪”を表現するためにクレヨンで描かれています。



『ごあいさつごあいさつ』(1999年、あかね書房)

かえるの家族がピクニックに出かけて、太陽やちょうちょ、ことりたちにあいさつをすると、みんな元気にこたえてくれます。海でくじらにあいさつすると、お礼に潮吹きあそびをさせてくれました。

画面いっぱいにとどしりと描かれたくじらと、ぴよこびよこ動くかえるたちの対比が印象的です。

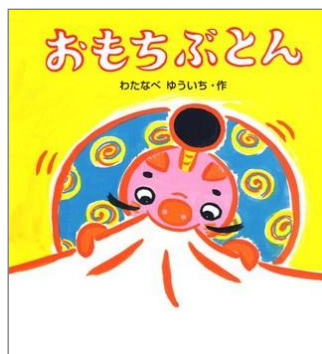


『ねこのはなびや』(2001年、フレーベル館)

ねこのはなびやたちが、技と度胸を競う花火大会。次々に打ち上がる色とりどりの花火がとても美しく、読者もねこたちと一緒に花火大会を楽しんでいる気分になります。途中にある折り込まれたページは、広げると画面が大きくなって迫力満点です。

『おもちぶとん』(2005年、あかね書房)

ぶたのお城で、ふとんのような大きなおもちを作りました。お正月まで食べてはいけないと言われていましたが、おもちが大好きなどのさまは、一人になったときに思わず口をつけてしまいます。家来が戻ってきたことにあせって、もう一枚のおもちをかぶって隠れてしまうのですが……。途中の展開はハラハラしますが、結末はコミカルなものになっています。



『はる・なつ・あき・ふゆこれなあに』

(2006年、あかね書房)

さくらや花火など、四季の風景や物を動物たちが次々と紹介していきます。「これなあに？」の問いかけにうながされて、想像しながら次のページをめくるのが楽しい絵本。



◆シリーズもの

●「ねこざかな」シリーズ（フレーベル館）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 『ねこざかな』(1982年) | 『ねこざかなのおしっこ』(2010年) |
| 『おどるねこざかな』(2001年) | 『ねこざかなのはなび』(2011年) |
| 『ねむるねこざかな』(2003年) | 『ねこざかなのすいか』(2012年) |
| 『ねこざかなのクリスマス』(2003年) | 『ねことさかなでねこざかな』(2014年) |
| 『そらとぶねこざかな』(2004年) | 『ねこざかなとイッカクくん』(2014年) |
| 『だっこだっこのねこざかな』(2005年) | 『ゆきののんのねこざかな』(2015年) |
| 『まいごのねこざかな』(2006年) | 『ねこざかなのたんじょうび』(2016年) |
| 『ねこざかなとうみのおぼけ』(2007年) | 『ねことさかなとなみぼうず』(2017年) |
| 『にげろ！ねこざかな』(2008年) | 『ききいっぱつねこざかな』(2018年) |
| 『ばんごはんはねこざかな』(2008年) | 『とんかちこぞうとねこざかな』(2019年) |
| 『ねこざかなのたまご』(2010年) | 新装改訂版『ねこざかな』(2021年) |



くいしんぼうのねこが、つつさかなを食べようとすると、さかなも負けずに口を大きく開けて、なんとねこを飲み込んでしまいます。そのまま海で泳いでいるうちに、さかなが「このままふたりでくらそうか」と提案。「ねこざかな」が誕生します。ちょっと不思議な仲良しコンビが様々な体験を繰り広げる、大人気シリーズ。



とび出したり、音が出たり、しかけがいっぱいの絵本だよ！

※しかけ絵本は壊れやすいため、貸出用がないものもありますが、申請すれば文学館内で閲覧できます。

● 「かえるちゃん」シリーズ（PHP 研究所、全5巻）

『かえるちゃんのゆうびん』（1987年）

『かえるちゃんのおねしょ』（1987年）

『かえるちゃんとかばおばさん』（1987年）

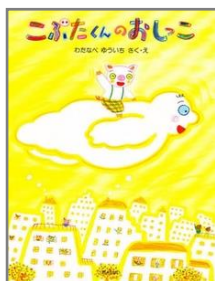
『かえるちゃんのおつきみ』（1989年）

『かえるちゃんのおくび』（1999年）



目に映るすべてのことに興味津々のかえるちゃんと、優しいのんきむらのかばおばさん。大人がやることを見て、「ぼくもやる！」と積極的にチャレンジするかえるちゃんですが、手紙を入れようとしてポストの中に落ちてしまったり、ホットケーキのふくらしこを入れすぎてしまったりと、事件を起こしてしまっ……。

● 「こぶたくん」シリーズ（ぎょうせい、全3巻）



『こぶたくんのおしっこ』（1992年）

『こぶたくんのすいかじけん』（1992年）

『こぶたくんにキスキスキス』（1993年）



おねしょの癖が直らないこぶたのプイが、おひるねの前に雨雲と一緒におしっこをする『こぶたくんのおしっこ』、のどがかわいてこっそりすいかを食べてしまい、怒ったすいかに飲み込まれてしまう『こぶたくんのすいかじけん』、キスをしてくしゃみを移していく『こぶたくんにキスキスキス』。こわい思いをすることもありますが、どれも最後はにっこり笑顔のシーンで終わります。

◆読みもの

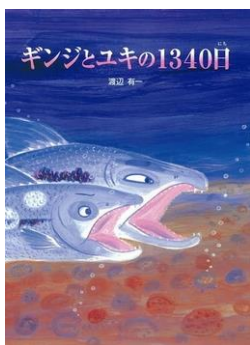


『たろうとつばき』(1984年、ポプラ社)

椿が有名な伊豆の利島に住むたろうが、都心入院している母のお見舞いに一人で向かいます。初めての体験に戸惑いながら、周りの人の手を借りて病院にたどり着くと……。わたなべさんが小さい頃、遠くで暮らすお母さんに一人で会いにいったときの体験が反映されています。マンガのように、ページがコマ割りで吹き出しがついているのが特徴です。

『はしれ、きたかぜ号』(1985年、童心社)

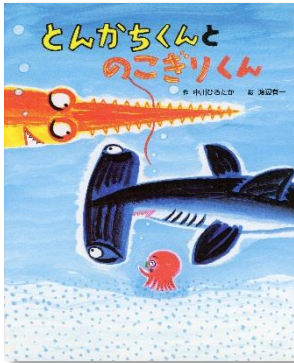
青森行きの特急きたかぜ号に乗って、おばあちゃんの家
に一人で向かう2年生のゆきこ。車窓から漁の様子を
見て、さかなのことを思って胸がきゅーんと痛くなりま
す。トンネルに入るとなぜか列車が止まってしまい、車
内に入ってきたのは、なんとそのさかなたちで……。
中盤の緑がかった画面が、不思議な体験を演出していま
す。第8回絵本にっぼん賞受賞作品。



『ギンジとユキの1340日』(2014年、文研出版)

サケの一生を愛情深く描いた絵本。体に白い雪の模様があ
るユキが、銀色のうろこがきれいなギンジと出会い、鳥や
アザラシなどの天敵、嵐や吹雪におそわれながらも、力強
く旅します。旅立ってから1340日、ついに生まれた川
に戻り、たまごに命を宿します。

2011年3月11日の大地震によってもたらされた河口
の異変に気がつきつつも、川をのぼりつづけるサケのひた
むきな姿が、「生きるとは何か」を問いかけてきます。



中川ひろたか／文『とんかちくんと のこぎりくん』
(学研、2007年)

頭がとんかちのさめ・とんかちくん、鼻がのこぎりのさめ・のこぎりくんは、何でもかんでも壊してしまうので、みんなから嫌われています。そんな二人を、年取ったかめがあるところへ連れていって……。いたずらをするときには意地悪な顔つきだったのが、自分の体を役立てて働いているときは、生き生きした笑顔に変わっています。

内田麟太郎／文『ぼっかりつきがでましたら』
(文研出版、2007年)

「ぼっかりつきがでましたら」ということばに続いて、カバヤトマトなど、意外なものが次々と空に浮かびます。ページをめくるたびに現れるシュールな絵面が面白い1冊。



内田麟太郎／文『すやすやタヌキがねていたら』
(文研出版、2009年)

すやすやタヌキがねていると、周りにいるみんなもつられてねむってしまいます。繰り返されるリズムのいい文章と、気持ちよさそうにすやすやねむるタヌキの表情に、ほっこりと心があたたかくなります。第15回日本絵本賞受賞作品。



押川理佐／作『ねこまるせんせいのおつきみ』

(2012年、世界文化社)

猫の手も借りたいほど忙しいこども園を手伝いに来たのは、本物のトラ猫・ねこまるせんせい。おつきみの準備中、うっかりおだんごを食べてしまったねこまるせんせいの体はすーっとうかびあがり、気がつくところちゃんと一緒に知らない町に来ていました。そこにいたうさぎたちは、「あおいほし」を見るためにおもちをついて……。

月での十五夜の場面が感動的です。うさぎたちが言う「あおいほし」とは何だろう？と想像しながら読み進めてみてください。

押川理佐／作『ねこまるせんせいとせつぶん』

(2014年、世界文化社)

せつぶんの日、鬼の役をやっていたねこまるせんせいは、豆を投げてくる子どもたちから逃れて物置に隠れます。そこには、「まめまき、こわいよう！」と言って泣いている男の子がいました。二人で裏庭に逃げたはずが、出たところは雪で真っ白な深い森の中で、そこにいたのはなんと……。

豆まきをして帰ってくると、庭の木に花が咲いているという変化から、季節の移ろいを感じられます。



読んでみたい本があったときや、

ここにのっていないわたなべさんの本について知りたいときには、
文学館や図書館のカウンターにお声がけください。

発行 町田市民文学館 ことばらんど 2021年1月改訂

